

公共図書館の選書業務における選書ツールの研究

著者	木下 朋美
内容記述	この博士論文は内容の要約のみの公開（または一部非公開）になっています
発行年	2019
学位授与大学	筑波大学 (University of Tsukuba)
学位授与年度	2018
報告番号	12102甲第8890号
URL	http://hdl.handle.net/2241/00156338

公共図書館の選書業務における選書ツールの研究

筑波大学
図書館情報メディア研究科
2019年2月

木下 朋美

要 旨

公共図書館の選書業務における選書ツールの研究

図書館の業務の1つに選書業務がある。公共図書館の選書業務においては直接選択と間接選択が主に用いられている。直接選択とは実物の資料を手にとって選択する方法であり、間接選択とは出版物リストや書評などの各種のツールをもとに選択する方法である。

日本の公共図書館においては間接選択の情報源として書評誌、新聞の書評欄、出版社の新刊情報や取次などが作成する週刊の新刊リストなどがある。週刊の新刊リストの例として、日本出版販売株式会社『ウィークリー出版情報』や図書館専門の書籍流通業者である株式会社図書館流通センター（略称：TRC）『週刊新刊全点案内』が挙げられる。

本研究の目的は日本の公共図書館における選書ツールの役割を明らかにすることである。前述したように選書業務の選択方法には直接選択と間接選択の2つの方法があり、両方を合わせて選書業務を行うことが望ましいと指摘されている。しかし多くの日本の公共図書館は、主に間接選択で選書業務を行っている。本研究では間接選択の中核をなす選書ツールの1つである株式会社図書館流通センター『週刊新刊全点案内』を取り上げ、『週刊新刊全点案内』の作成過程や掲載されている情報の網羅性と傾向、図書館員が『週刊新刊全点案内』をはじめとした選書ツールをどのように使用して選書業務を行っているかを検討し、日本の公共図書館の選書業務における選書ツールの役割を明らかにする。

公共図書館の選書業務をめぐっては、理論としての選書研究や図書館職員による選書の実践報告は現在まで多く発表されてきた。しかし間接選択に使われる選書ツールの具体的な内容や作成過程、選書ツールの位置づけについて論じた学術的研究はなかった。本研究では公共図書館の選書業務における選書ツールの役割を明らかにするために、5つの研究課題を設定した。

研究課題 1：図書館情報学分野の文献調査によって、選書の歴史的展開を明らかにする。

研究課題 2：選書ツール作成会社が選書ツールを作成する過程を明らかにする。

研究課題 3：選書ツールに掲載されている情報の網羅性および掲載の傾向を明らかにする。

研究課題 4：公共図書館が実践として行っている選書業務の実態を明らかにする。

研究課題 5：公共図書館の選書業務における選書ツールの位置づけを明らかにする。

研究課題 1 では選書ツールについて検討するための基盤として、アメリカと日本における選書の歴史的展開を文献調査によって確認した。研究課題 2 では選書ツール作成会社として株式会社図書館流通センターを研究対象とし、インタビュー調査によって TRC MARC や『週刊新刊全点案内』が作成される過程を調査した。研究課題 3 では『週刊新刊全点案内』と Amazon のデータベースとの比較調

査によって『週刊新刊全点案内』に掲載された新刊情報の網羅性と掲載の傾向を検討した。研究課題 4 では関東の X 県の 37 館の公共図書館を対象としたインタビュー調査によって、公共図書館の選書業務の実態を調査した。研究課題 5 では研究課題 4 と同じ X 県の公共図書館から 6 館の図書館を対象としてインタビュー調査を実施した。この 6 館は『週刊新刊点案内』を主な選書ツールとして使用している。調査から公共図書館の選書業務における『週刊新刊全点案内』の位置づけを分析した。以上の 5 つの研究課題を明らかにすることによって、公共図書館における選書ツールの役割を検討した。

第 1 章では研究背景と目的、先行研究、研究課題と意義、研究方法について述べた。

第 2 章ではアメリカと日本における選書の歴史的展開を文献調査によって調査した。アメリカにおける選書は自然向上論から始まった。フィクション論争を経て台頭した要求論が 1950 年代に衰退してからは目的論が主流となり、現在では両者のバランスが必要だとする意見が多い傾向にあった。日本における選書についてみると、戦前の公共図書館は思想善導に基づく「良書」を中心に選書していたという考え方が一般的だった。しかし太平洋戦争開戦までは資料の価値を重視する論考ばかりではなく、利用者の要求を重視する論考や価値と要求の折り合いを追求した論考も存在していた。

戦後、1963 年に刊行された『中小都市における公共図書館の運営』で貸出を重視する選書が主張された。その後 1970 年の『市民の図書館』で市民の要求に応える選書が提唱された。1980 年代から 1990 年代にかけて価値と要求の統一の試み、目的論の提唱、利用者の要求に応える選書の主張、「制限的要求論」と「絶対的要求論」の区分による主張などが展開された。2000 年代には新たな学術的な理論はなかった。

第 3 章では株式会社図書館流通センターのインタビュー調査から、TRC MARC および『週刊新刊全点案内』の作成過程を明らかにした。また『週刊新刊全点案内』と Amazon のデータベースの比較調査から、『週刊新刊全点案内』に掲載されている情報の網羅性と掲載の傾向を分析した。インタビュー調査の結果、株式会社図書館流通センターは原則として出版物全点の MARC を作成していた。そして過去の図書館の購入状況などから図書館が購入する書籍を予想して確実に図書館に届ける仕組みを構築していた。Amazon データベースとの比較調査の結果『週刊新刊全点案内』における新刊書籍の掲載割合は 60.2%であった。しかしサンプル全体の 39.8%を占める「掲載されていない書籍」には株式会社図書館流通センターが掲載しないと明示しているものや、掲載されていない合理的な理由がわかるもの、調査で用いたデータベースの仕様によるノイズの混入などが含まれていた。そのためサンプルとして抽出した書籍 485 件のうち、96.7%の書籍について掲載・非掲載の整合性を確認できた。この結果から『週刊新刊全点案内』は「図書館に特化した新刊情報」という点からみると、網羅性が高く偏りが少ない選書ツールであった。

第4章では公共図書館の選書業務の実態を、関東のX県の公共図書館37館を対象としたインタビュー調査から明らかにした。調査の結果、以下の点が明らかになった。まず37館中18館で収集方針・選択基準が作成されており、10館では明文化はされていないが慣習的な方針を持っていた。次に33館が日常的な選書にカタログを主に使用すると回答し、33館中30館の図書館が『週刊新刊全点案内』を使用すると回答した。そして予算内での図書の選択・購入と利用者の要求の高い図書の選択は選書会議の有無とは関係なく重視されていた。そしてリクエストは購入で応えることよりも図書館間相互貸借によって資料を提供することが重視され、購入による資料提供は資料が「高額である」ことを理由に出来ない傾向が強かった。最後に、選書会議を行なう図書館では全員でカタログを回覧して選書することが多かった。そして選書会議を行っていない図書館では選書業務が選書担当者に任される傾向が強かった。

第5章では第4章と同じくX県において『週刊新刊全点案内』を選書業務に使用している6館の公共図書館を対象としたインタビュー調査を実施した。インタビューから公共図書館が『週刊新刊全点案内』などの選書ツールをどのように位置づけて選書業務を行っているか検討した。調査の結果、図書館の規模に関わらず公共図書館は『週刊新刊全点案内』を最も重要な選書ツールと認識していた。しかしどの図書館においても『週刊新刊全点案内』以外のツールを補助的に使用して多角的に情報を集めて選書に取り組んでいた。また『週刊新刊全点案内』や株式会社図書館流通センターのサービスは、選書、発注、納品という3点において公共図書館にとって有益な存在であった。また、予算の減少や人員不足が選書業務の課題として挙げられている中で、公共図書館は『週刊新刊全点案内』や株式会社図書館流通センターのツールを使用することで少ない労力で選書業務が可能となっていた。大規模館では多くの資料を購入しなければいけない状況のなかで、選書から発注、納品まで行える株式会社図書館流通センターのサービスが業務効率化に役立っていた。そして小規模館は限られた職員数や、書店が無く情報が少ない中で選書しなければいけない状況があった。しかしその状況を『週刊新刊全点案内』に掲載されている多彩な情報や、他業務の合間に選ぶことができる間接選択の長所を活用して補っていた。

第6章では5つの研究課題を検討し、株式会社図書館流通センター『週刊新刊全点案内』を例に日本の公共図書館の選書業務における選書ツールの役割を検討した。結論として言えることは次の4点である。

1. 選書ツールおよび選書ツールから発注した図書がMARCとともに装備済みで納品されるシステムは、選書業務において最も重要視される選書業務の中核的な情報源の役割を担っていた。このことは株式会社図書館流通センターの『週刊新刊全点案内』を選書業務に使用している図書館に対する調査から導かれた。
2. 公共図書館は特定の選書ツールを中核的な情報源としていたが、多様な選書ツールおよび情報源を使用して多角的な視点から情報を集めていた。このことは本研究の調査対象であるX県の公共図書館の選書実践調査から導かれた。

3. 選書ツールは、選書ツールと納品システムを通して、選書から発注、納品までの図書館の選書業務と組織化業務の一部としての役割を担っていた。このことは株式会社図書館流通センターの『週刊新刊全点案内』を選書業務に使用している図書館に対する調査から導かれた。
4. 選書ツールは図書館の規模にかかわらず、職員のサポートシステムとしての役割を担っていた。予算減少や人員不足が課題として挙げられているなかで、公共図書館は選書ツールを使用することで少ない労力で選書業務が可能となっていた。このことは『週刊新刊全点案内』を選書に使用している図書館への調査から導かれた。

本研究は日本の公共図書館の選書業務における選書ツールの役割を実証的に解明した。本研究において間接選択で使用される選書ツールの実態と選書業務における役割を実証的に明らかにしたことで、今後は間接選択を前提とした新たな視点から選書研究の遂行が可能となる。

Abstract

Research on the Selection Tools used by Public Libraries in their Book Selection Practices

The selection of books is one of the most important tasks that libraries undertake. Public libraries tend to use two methods: direct selection and indirect selection. Direct selection is obtaining books by direct inspection and purchase, whereas indirect selection is selecting books using tools such as publication lists and book reviews.

As sources for indirect selection, public libraries in Japan use review magazines, book review columns in newspapers, newly published information provided by publishers, and weekly lists of new publications prepared by wholesale booksellers. Examples of weekly lists of new publications include Weekly Publication Information from NIPPON SHUPPAN HANBAI INC. and SHUKAN SHINKAN ZENTEN ANNAI (Weekly All New Books Guidance, hereinafter referred to as SSZA) provided by the TRC Library Service Inc. (TRC).

The purpose of this research is to clarify the role of selection tools in Japanese public libraries. It has been claimed that conducting selection by combination of direct and indirect selection is preferable. However, in reality, public libraries in Japan tend to use indirect selection exclusively. This close examination of the SSZA, a core tool for indirect selection, revealed editing processes and the comprehensiveness of its coverage and trends, and elucidates roles of selection tools as used by Japanese public libraries.

Some researchers and librarians have published theoretical studies and practical reports on selection tasks in public libraries. However, there has been so far no academic research investigating the actual nature of the tools employed for indirect selection, the editing process, or the positioning of the selection tool. Therefore, in this study, I set five Research Questions for identifying the roles of selection tools in the selections made by public libraries.

Research Question 1: To clarify the historical development of selection via a survey of the library and information science literature.

Research Question 2: To clarify the process of how companies create selection tools.

Research Question 3: To clarify the completeness of the information available in selection tools and trends in their publication.

Research Question 4: To clarify how public libraries conduct selection in practice.

Research Question 5: To clarify the positioning of the tools used in the selection process at public libraries.

For Research Question 1, for obtaining examination basis, I investigated the historical developments in book selection in the United States and Japan by means of a literature research. For Research Question 2, I examined the process of making TRC's MARC (MACHINE-Readable Catalogs) and SSZA by interviewing TRC, a selection tool creation company.

In Research Question 3, I evaluated the comprehensiveness of new publication information and the tendency of the SSZA by comparing them with Amazon's database. For Research Question 4, I investigated 37 public libraries in X Prefecture in the Kanto Area by means of interviews. In Research Question 5, I conducted interviews with six public libraries in the same area that use SSZA as their main selection tool. I then analyzed the position of the SSZA in book selections made by public libraries.

Chapter 1 explains the background and purpose of the research, previous studies, the subject and significance of the research, and the research method.

Chapter 2 investigates the historical developments of book selection in the United States and Japan via a literature survey. Selection in the United States began with the natural improvement theory, but the demand theory has become the mainstream, and the current consensus is that a balance between the two is necessary. Regarding selection in Japan, it is often believed that prewar public libraries' selections consisted of ideologically correct "approved books." However, until the start of the Pacific War, a balance existed between what the people and the government wanted.

After the Pacific War, *Management of Public Libraries in Medium and Small Cities*, published in 1963, argued for selection focusing on readers' wishes. Subsequently, *The Citizens' Library*, published in 1970, proposed that selection should respond to citizens' needs. From the 1980s to the 1990s, several discussions developed. There were attempts to unify value and demand, the advocacy of objective theory, arguments about selections responding to user's requests, and claims made based on the classifications of "restrictive requirement theory" and "absolute requirement theory." On the other hand, in the 2000s, there was no academic theory of these subjects.

In Chapter 3, I elucidate the process of making MARC versions of the TRC and the SSZA through interviews with TRC. I analyze the comprehensiveness and publication trends of the information posted by the SSZA based on a comparative survey of Amazon's Database and the SSZA. The interviews revealed that TRC makes MARC versions of all publications in principle, and that they have constructed a mechanism for reliably delivering books based on purchase histories acquired by libraries.

The comparative survey showed newly published books posted on SSZA to be only 60.2% of Amazon's database. The "missing" books (39.8% of the sample) were types that TRC clearly states that they do not, items with rational reasons for not being posted and others in foreign languages. Therefore, using 485 samples, I confirmed that the SSZA was 96.7% consistent in its postings of books. This result suggests that SSZA is a selection tool with high comprehensiveness and little bias in its information provided to libraries.

Chapter 4 clarifies the actual state of book selection in public libraries from interviews at 37 public libraries in X Prefecture in Kanto. The results of the survey revealed the following. Firstly, 18 of 37 libraries had their own collection policies and selection criteria, and 10 had no explicit arrangement conducted under a set policy.

Secondly, 33 libraries responded that they mainly used catalogs for everyday selections, and 30 libraries picked the SSZA as their tool. Thirdly, selection and purchase within the budget and on the insistence of users were mostly respected in and out of the selection meetings. Fourthly, requests from users were preferably taken care of by inter-library loans rather than by purchases. When libraries cannot respond to users' requests, the reason given is that of budgetary restrictions. Finally, at libraries that hold selection meetings, all the staff members frequently pass the catalogs around before selecting books, whereas at libraries that do not hold such meetings, the person in charge almost always takes responsibility for making the selections.

In Chapter 5, I conducted interviews, as in Chapter 4, at six public libraries that use the SSZA or similar publications for selection, and examined how public libraries use their selection tools. The results showed that, regardless of the size of the library, they viewed the SSZA as their most important selection tool. However, every library also adopted a wide range of supplementary tools and collected other information to help them make their selections. The SSZA and the services provided by TRC were useful for public libraries in the three areas of selection, ordering and delivery. With the aid of the SSZA and TRC, the task of selection was made easier, despite current budget cuts and personnel shortages. When larger libraries need to buy a greater number of materials, the TRC's services assisted with conducting the selection, ordering, and delivery. On the other hand, in small libraries with limited staff numbers and little access to bookstores and information for selection, the wide and diverse information provided by the SSZA eases the pressure on the staff. The chief advantage of indirect selection is that it allows staff to carry out selection quickly and easily.

Chapter 6 reviews the five research questions, and taking the SSZA as an example, I examined the role of selection tools at Japanese public libraries.

My conclusions center on the following four points.

1. Both the selection tool and the system by which books ordered through the selection tool are delivered equipped with MARC, and which act as core information sources, are regarded as the most important for selection. This conclusion was derived from a survey of libraries that use the TRC's SSZA for book selection.

2. Public libraries use specific selection tools as core information sources, but still complement them from multilateral perspectives with a range of other information sources. This was derived from my investigation of book selection at public libraries in X Prefecture.

3. The selection tools take care of the selection task, which is part of the process that extends from order to delivery. This information was acquired from surveys of libraries that use the SSZA.

4. Regardless of the size of the library, the selection tools ease pressure on the staff. At public libraries that face problems such as budget cuts and personnel shortages, book selection tools make it possible to perform this task with much less effort. This information was obtained from a survey of libraries that use the SSZA to make their selections.

In this study I empirically clarified the actual situation and the role of book selection tools at Japanese public libraries. This empirical elucidation paves the way to embarking on a study of selection from the new viewpoint of presuming mainly indirect selection in the future.